

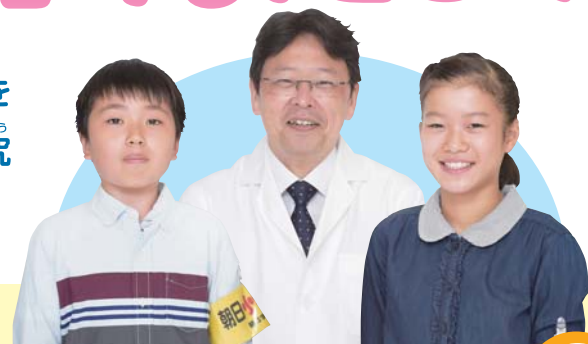
薬剤耐性 (AMR) ってなに？



子ども記者が国立国際医療研究センター病院を取材／

薬と細菌の関係について学んだよ！

薬剤耐性 (AMR) とは、感染症に対して抗菌薬 (抗生物質) が効かなくなることです。その対策をしないと30年後には世界で年間1,000万人が亡くなると予想されています。国立国際医療研究センター病院AMR臨床リファレンスセンターを訪ね、薬剤耐性について取材してきました。

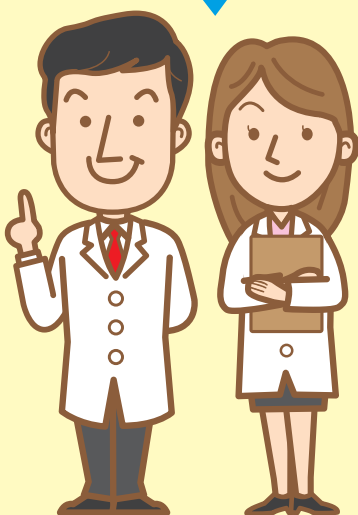


大曲貴夫センター長 (中央) と子ども記者の井町知道さん (左)、増田真希さん (右)

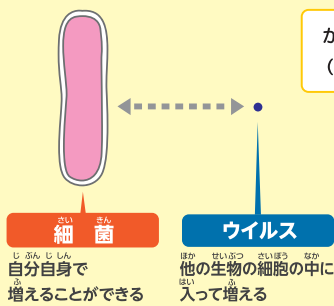
正しい知識をしっかりと身につけよう！

薬剤耐性とはなに？ なぜ薬剤耐性菌が増えるの？

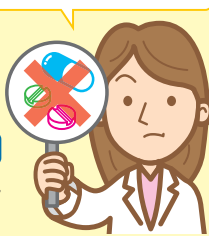
1



細菌もウイルスもとても小さな生物です。大きな違いは、大きさと増え方です。細菌はウイルスの約100～1000倍の大きさがあり、自分でエネルギーを作ります。ウイルスは自分でエネルギーを作れないので、他の生物を利用して増えていきます。抗菌薬 (抗生物質) は、細菌をやっつける薬です。ほとんどの「かぜ」の原因であるウイルスには効果がありません。



かぜのウイルスに抗菌薬 (抗生物質) は効きません



細菌の検査室を見学。感染症にかかった人の細菌を検査・分析しどんな薬が効くのか調べたりしています

「今日は細菌と抗菌薬について勉強しました」と、大曲センター長のお話がスタートしました。「まず感染症について知ってください。感染症の原因は細菌とウイルスの二種類あります。たとえばかぜはウイルスが原因となることが多いですし、中耳炎は私達の体内にはたくさん細菌がいて、なかには抗菌薬が効かない薬剤耐性菌がいます。抗菌薬を飲むと、病原菌とともに体に害のない細菌も退治され、薬剤耐性菌だけ残り、それが増えてしまうのです。」

「薬剤耐性とは、抗菌薬が効かなくなることです」とセンター長は続けます。「私たちの体内にはたくさんの細菌がいて、なかには抗菌薬が効かない薬剤耐性菌がいます。抗菌薬を飲むと、病原菌とともに体に害のない細菌も退治され、薬剤耐性菌だけ残り、それが増えてしまうのです。」

「まず感染症について知ってください。感染症の原因は細菌とウイルスの二種類あります。たとえばかぜはウイルスが原因となることが多いですし、中耳炎は私達の体内にはたくさん細菌がいて、なかには抗菌薬が効かない薬剤耐性菌がいます。抗菌薬を飲むと、病原菌とともに体に害のない細菌も退治され、薬剤耐性菌だけ残り、それが増えてしまうのです。」

薬剤耐性にならないためには？ 予防法は？

3

「薬剤耐性にならないためには、予防法があります。『薬剤耐性にならないためにはどうすれば良いですか？』と子ども記者から質問です。『小学生のみんなにもできることがあります。まず、手洗いを徹底することです。帰ったら手を洗ってください。もうひとつはかぜをひいたとき、他の人につさないためマスクをすることです。』

「最後に薬剤耐性について、ひとりで多くの人に知ってもらいたいです。知ってもらった方が大切です。」



薬剤耐性が増えていくとどうなるの？ その対策は？

2

「感染症が治せず、手術もできなくなります。薬剤耐性菌が増え、抗菌薬が効かなくなると、2つの大きな問題が起こります。まず、ひとつは患者さんの感染症を治すことができないこと。もうひとつは大きな手術をするとき、感染症がおきないように抗菌薬を出しますが、感染症がおきたとき効かないとなると手術を行うことができないのです。今、薬剤耐性菌の出現が、世界中で問題になっています。」

「感染症が治せず、手術もできなくなります。薬剤耐性菌が増え、抗菌薬が効かなくなると、2つの大きな問題が起こります。まず、ひとつは患者さんの感染症を治すことができないこと。もうひとつは大きな手術をするとき、感染症がおきないように抗菌薬を出しますが、感染症がおきたとき効かないとなると手術を行うことができないのです。今、薬剤耐性菌の出現が、世界中で問題になっています。」

「かぜをひいたらお医者さんに行って抗菌薬をもらおう」そんなふうに思っていないですか？ 抗菌薬は細菌に効く薬です。ほとんどの「かぜ」の原因であるウイルスやインフルエンザには効きません。抗菌薬を使うかどうかは、医師の指示に従ってください。

抗菌薬を正しく理解して、正しく飲むことが大切です。



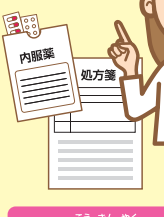
かぜに抗菌薬はいりません！



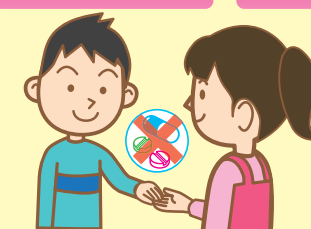
抗菌薬は医師の指示通りの飲みきりましょう



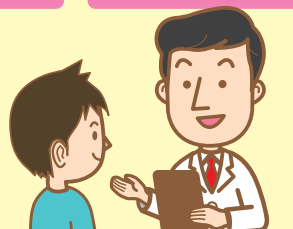
抗菌薬をとっておかない



抗菌薬をもらうには医師の処方箋が必要です

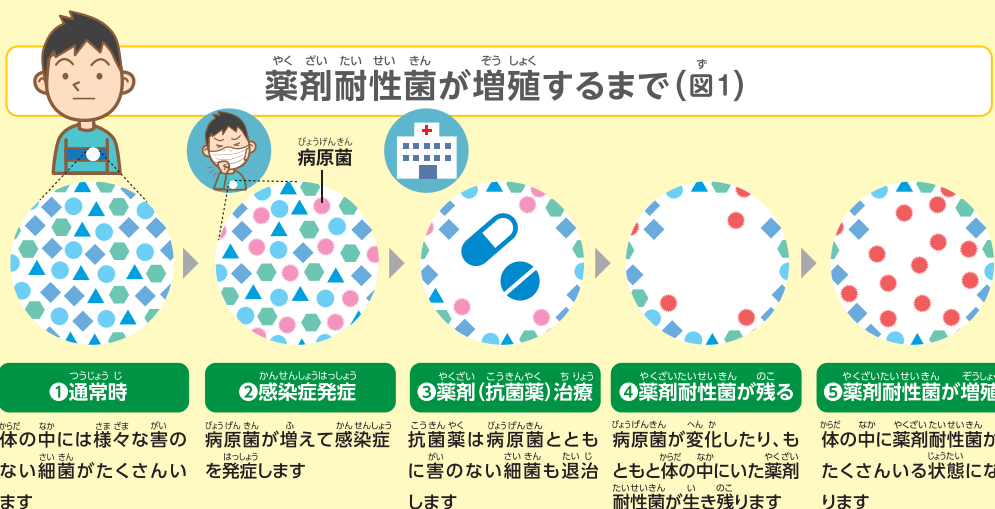


抗菌薬をあげたり、もらったりしない



わからないことは医師や薬剤師に聞きましょう

薬剤耐性菌が増殖するまで (図1)



※いつも薬剤耐性菌に置き換わるわけではありませんが、抗菌薬を使うほどその機会が増えてしまいます。

取材した2人の感想

井町知道さん (小学6年生)

僕は4年生で肺炎にかかったとき処方された抗生物質が効かずに、薬剤耐性に興味を持ちました。今日のお話でさらに理解できました。また予防法についても学校で友だちに話したいと思います。

増田真希さん (小学6年生)

処方された薬を飲むのをやめて保存して、自分の思い込みで「同じような症状のときに飲む」とか「ほかの人にあげることに危険さ」が分かり、とても役に立つお話を聞くことができました。



AMR 臨床リファレンスセンター

Antimicrobial Resistance Clinical Reference Center (厚生労働省委託事業)

AMR かしこく

検索

<http://amr.ncgm.go.jp/>